

「BOSAI 人材育成」キックオフミーティング@福島県浪江町を開催・参加しました (2024/10/4)

テーマ： JICA 課題別研修「スマートシティ実現に向けた手法・アプローチ」の受入実施

会場：道の駅なみえ 会議室

URL：<https://www.ggi.tohoku.ac.jp/2024/09/09/1612/>

2024年(令和6年)10月4日(金)、福島県双葉郡浪江町の「道の駅なみえ」の会議室において、「BOSAI 人材育成」キックオフミーティング(主催：東北大学グリーン未来創造機構)が開催され、災害科学国際研究所から多数の教職員が参画しました。

本学では、「FUKUSHIMA サイエンスパーク構想」(注1)を推進しており、そのプロジェクトの一環として、福島県浜通りから世界へ発信する「BOSAI 人材育成」に取り組むもので、学生や研究者に留まらず、一般からも幅広い世代を集め、東日本大震災の教訓や災害対応を学び、将来的には福島国際研究教育機構(F-REI, エフレイ)や国内外の大学、地元住民や企業などとも連携していくことを企図しています。

今回のキックオフミーティングでは、グリーン未来創造機構の副機構長でもある今村文彦教授(津波工学研究分野)をはじめ、専門分野の異なる4人の教員と浪江町の職員が、FUKUSHIMA サイエンスパーク構想や地域のこれまでの取り組み、今後の「BOSAI 人材育成」構想の概要、また防災に繋がる最新の研究等に関する話題提供がなされました。

また、齋藤玲助教(認知科学研究分野)による進行で、参加者が6つのグループに分かれ、当研究所の教職員がファシリテーターとなってワークショップ形式でのディスカッションを行い、今後の「BOSAI 人材育成」の方向性や詳細を検討していくにあたって、その基礎となるBOSAI人材に必要な資質・能力やその育成の方法等についての意見交換をしました。

当日は教職員・学生など本学関係者が約30名、中央官庁や地方自治体、また企業や一般応募による参加者約30名、合計約60名にご参加いただき、会場が一杯になるほどの盛況となりました。

翌5日には、本学関係者を中心に、2班に分かれて震災遺構の浪江町立請戸小学校、大熊町インキュベーションセンター、東日本大震災・原子力災害伝承館、中間貯蔵施設の視察を行い、知見を深めました。

この「BOSAI 人材育成」については、今回のワークショップでの議論等も参考にして更に詳細を検討し、一部講義の開講やイベントを実施しながら2026年の本格実施に向けて進めていく予定です。

注1：社会価値創造のために多彩なアクターが共創するイノベーション、エコシステム、スタートアップ創出に関する本学の実績によるアントレプレナー教育など、本学のサイエンスパーク(<https://sciencepark.tohoku.ac.jp/>)における社会共創事業を、福島県浜通り地域にも展開しようとするもの。

今回のキックオフミーティングの内容と話題提供者・ファシリテーターは以下の通りです。

■ 挨拶

湯上 浩雄 副学長・グリーン未来創造機構長

■ 話題提供

- 今村 文彦 副理事・グリーン未来創造機構副機構長(津波工学研究分野)
「FUKUSHIMA サイエンスパーク構想について」
- 柴山 明寛 准教授(災害文化アーカイブ研究分野)
「BOSAI 人材育成プログラムについて」
- 御手洗 潤 教授(防災社会推進分野/法学研究科公共政策大学院)
「公共政策大学院での人材育成活動」
- 田所 諭 教授(災害対応ロボティクス研究分野/情報科学研究科 タフ・サイバーフィジカルAIセンター長)
「災害対応ロボット」

(次ページへ続く)

- 多田 千佳 准教授（農学研究科）
「防災とエネルギー」
- 磯貝 智也 氏（浪江町 企画財政課課長補佐）
「浪江町の復興の取り組みについて」

■ディスカッション

総合進行：齋藤 玲 助教（認知科学研究分野／情報科学研究科）

ファシリテーター：福島 洋 准教授（陸域地震学・火山学研究分野）

サッパシー・アナワット 准教授（津波工学研究分野）

ゲルスタ・ユリア 准教授（災害文化アーカイブ研究分野）

北村 美和子 特任研究員：助教（国際研究推進オフィス）

保田 真理 プロジェクト講師（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）

鎌田 健一 特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）



満席の会場で話題提供をする田所教授



ディスカッションの様子

文責：鎌田健一（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）